

平成 31 年 4 月 23 日

【影島地域外交課長】 おはようございます。それでは、定刻となりましたので、ただいまから平成 31 年度静岡県地域外交推進本部会議を開催いたします。

本会議の司会を務めます地域外交課長の影島です。よろしくお願いいたします。

それでは、次第に従いまして会議を進めます。初めに、平成 31 年度の執行体制につきまして、掛澤地域外交担当部長から説明をいたします。

【掛澤地域外交担当部長】 地域外交担当部長の掛澤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

議題に入ります前に、昨年は韓国の忠清南道との友好提携 5 周年という年でございまして、知事の相互訪問が実現するなど、年間を通じて各部で関連事業を進めていただきました。これにより、忠清南道と本県は様々な分野でより強固な関係を築くことができたと考えております。皆様の多大なるご協力をいただきましたことを、この場を借りて御礼申し上げます。

それでは、議題（1）平成 31 年度の執行体制についてご説明いたします。

まず、資料 1 をご覧ください。地域外交推進本部は、地域外交戦略を展開するに当たり、必要な施策を総合的かつ効果的に推進するために設置しているものでございます。知事直轄の地域外交局は、地域外交推進本部の事務局として各部の取組を、横串を通しまして情報の共有や連携を図っております。部局の壁を乗り越えて、全庁を挙げて海外との交流推進体制を浸透させているところでございます。

具体的な取組といたしましては、通商推進体制の強化を図るため、通商推進プロジェクトチームを設置、運営しております。

資料を 1 枚めくってください。A 3 サイズのものでございます。通商推進プロジェクトチームにつきましては、平成 29 年度から東郷対外関係補佐官、秋岡通商担当補佐官にリーディングアドバイザーをお願いし、副知事をはじめ、関係分野を所管する県幹部のもと、県産品の販路拡大や企業の海外ビジネス展開支援など 6 つの重点分野を定めております。その上でタスクフォースを設置して、具体的な取り組みを推進しているところでございます。

今年度のタスクフォースは、資料の中ほどに丸数字で示した地域や分野の7つです。各タスクフォースでは、担当理事や局長などのタスク長を中心にしまして、部局を横断した関係各課が連携して課題解決に向けた具体的な取り組みを実施しております。

そして、もう1点、多文化共生推進本部について簡単にご説明いたします。もう1枚資料をめくっていただきたいと思います。話題のとおり、本年4月1日から改正入管難民法が施行されておまして、我が国でも宿泊業や介護業など14業種の分野に該当する外国人技能労働者に門戸を開放することとなりました。また、本県で行われますラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピック・パラリンピックなどの世界的なスポーツイベントも開催される中で、本県でも外国人県民のさらなる増加が見込まれますことから、外国人県民と共生していく環境を整備することとしております。

昨年度まで地域外交局に属していた多文化共生課が、県民生活を所管する暮らし・環境部に移管され、多文化共生推進本部を中心として全庁的な政策推進や進行管理を一元的に行う体制が整備されております。

平成31年度の執行体制に関する説明は以上でございますが、本日の会議では、例年、皆様による意見交換の時間を設けております。本日お集まりの皆様全員の力を合わせて、友好的互惠・互助に基づく本県の地域外交を総合的かつ効果的に推進してまいります。本年度もご協力をよろしくお願ひしたいと思います。

私からは以上です。

【影島地域外交課長】 続きまして、地域外交施策の平成30年度評価、そして平成31年度の方針につきまして、地域外交局長から説明をいたします。

【長谷川地域外交局長】 私からは議題(2)地域外交施策の平成30年度評価及び平成31年度方針についてご説明いたします。

資料2、1ページ目の左上をご覧ください。平成30年度に改訂した地域外交基本方針では、3つの重点的取組を掲げております。有徳の人・憧れの地域をつくる交流の促進では、友好協定締結5周年となる韓国忠清南道とは青少年分野における民間主体の交流を拡大させたほか、県、旅行業界などによる富士山静岡空港を活用したツアー商品の造成などにより交流を促進し、結果として新たなLCC路線の開設につながりました。

また、中国浙江省とは、袁家軍省長が本県を訪問し経済分野の交流を進めたほか、省長の提案によりテレビ番組の取材が行われ現地で放映されるなど、両県省の交流が図られました。

次に、通商の促進では、通商推進プロジェクトチームによる庁内の連携を図った結果、韓国では食品展示会への出展支援などにより本県産ワサビへの注目度が高まるなど、県産品の販路開拓を進めることができました。

インドネシアでは、西ジャワ州との交流推進に係る覚書に基づき現地企業支援窓口である「静岡デスク」が設置されるなど、経済分野における協力を進めました。

スポーツ・観光交流の促進では、ラグビーワールドカップ 2019、そして東京 2020 オリンピック・パラリンピックという世界的なスポーツイベント開催に向け準備を進めるとともに、観光交流分野では富士山静岡空港を活用した観光誘客の促進を図りました。

その結果、モンゴルでは、オリンピック・パラリンピックの事前キャンプ誘致を通じた県内市町のスポーツ交流を進めたほか、台湾とは、県内高等学校などへの働きかけにより相互の教育旅行による交流が活発になりました。

次に、右の欄に移りまして、平成 31 年度の取組方針をご説明いたします。有徳の人・憧れの地域をつくる交流の促進では、中国浙江省や韓国忠清南道などとさらに関係を深めるほか、防災や健康・長寿など本県の特徴を生かした資源を活用した交流を進め、世界に憧れられる地域をつくる交流を促進いたします。

通商の促進では、引き続き通商推進プロジェクトチームを活用し、通商の一層の促進を図るとともに、覚書などに基づく技術協力を進めてまいります。

スポーツ・観光交流の促進では、いよいよ近づいてまいりますラグビーワールドカップ、そして東京オリンピック・パラリンピックを契機とした交流人口の拡大や、富士山静岡空港を活用した誘客促進に努めてまいります。

次に、1 ページ中ほどから重点国・地域別に、左側に中期的視点と平成 30 年度の主な取組・評価、右側に平成 31 年度の主な方針を記載しておりますので、こちらを簡単に説明させていただきます。本日は時間の都合もございまして、主に右側の平成 31 年度の主な方針についてご説明したいと思います。

まず、中国ですが、浙江省では友好交流卓球大会を通じたスポーツ交流を推進します。また、今年度北京で国際園芸博覧会が開催されることから、ブースの出展を通じて本県の魅力を情報発信し、知名度向上を図ります。

次に、2 ページに参ります。韓国ですが、3 月よりソウル線が 2 航空会社による運航となったことから、ツアー商品の造成などによりインバウンド、アウトバウンド双方での需要拡大策を展開し、定着を図ってまいります。

次に、同じページの下方、モンゴルです。モンゴルの若い優秀な人材を、人手不足に悩む県内企業への就職を進めるため、モンゴルで就職マッチング会などを開催します。

次のページに移りまして、台湾です。台湾の魅力を効果的に発信するため、今年度、映像制作に関するセミナーを開催し、現地映像の露出を高めることにより「親静岡」人材を育成してまいります。

下に参りまして、東南アジアです。人的交流では、新たにベトナムへの日本語パートナーズの派遣を行い交流人材の育成を図るほか、インドネシアでは、海外合同面接会の開催を通じて現地の高度人材を確保し、県内企業への人材供給を支援します。

次のページに移りまして、インドです。インドでは、テランガナ州から訪問調査団を受け入れ、人的・知的交流及び経済協力に向けた覚書を調印する予定です。

同じページの中ほど、米国です。新たに海外展開サポートデスクを設置し、県内企業の米国展開支援を強化してまいります。

その下、その他の地域におきましては、昨年に引き続き、ブラジルのサンパウロで日本政府が日本文化の情報発信を行うジャパンハウスに県内大学生を派遣し、若い世代のグローバル人材の育成を図ります。また、ラグビーワールドカップ2019には多くの外国人観光客や海外メディアが静岡を訪れることから、この機会を利用して本県の知名度向上につなげてまいります。

最後に、ページをおめくりいただきまして多文化共生についてです。誰もが安心して快適に、活躍できる地域づくりを進めるため、多文化共生施策推進本部内に設置したプロジェクトチームのもと、今後の社会情勢の変化や新たな課題に対応してまいります。

以上が重点方針の説明です。

なお、お配りした参考資料が後ろについていると思いますが、小さくて非常に見づらいのですが、参考資料1-1には地域外交関連事業の平成30年度実績を、参考資料1-2には平成31年度の事業計画を時系列で記載しております。

それから、A4横とじの参考資料2のアクションプログラムでは、重点国・地域別の取り組みを詳細に記載しておりますので、参考にしていただければと思います。

私からの説明は以上です。

【影島地域外交課長】 続きまして、地域外交基本方針の3つの重点項目への取り組みにつきまして、各部より説明をいたします。

最初に、有徳の人・憧れの地域をつくる交流の促進について、教育委員会、文化・観光

部、健康福祉部、危機管理部及び交通基盤部から説明をお願いいたします。

まず初めに、教育委員会からお願いいたします。

【鈴木教育部長】 それでは、教育委員会からご説明いたします。

資料 3-1 をご覧ください。県教育委員会では、平成 28 年度に創設しました「ふじのくにグローバル人材育成基金」を活用しまして、高校生の海外留学やインターンシップ、教職員の海外研修を支援しております。それとともに、中国、モンゴル国等との青少年交流事業、海外教育旅行の促進等によりグローバル人材の育成に取り組んでいるところでございます。

平成 31 年度の実施予定につきましては、1 番目としまして「ふじのくにグローバル人材育成基金」による取組でございます。高校生の留学による海外体験促進、専門高校等の生徒を対象にした海外インターンシップ、教職員の海外研修などを支援することで年間 200 人の海外派遣を目指しておりまして、平成 32 年度までの 5 年間で 900 人を派遣するという予定をしております。

特に教職員の海外研修では、2020 年度から小学校での外国語の教科化に対応しまして、新たに小学校英語対応海外研修の実施を企画いたしております。語学研修で定評のあるフィリピンの語学学校で、英語の指導力の向上と現地の学校等の視察等で多様性の理解を深めるということを目指しておりまして、10 名の小学校教員を派遣する予定であります。

このほか、2 番目の交流事業等といたしまして、日中青少年代表交流、モンゴルとの高校生相互交流を引き続き推進してまいります。

モンゴル国との指導主事相互交流につきましては、昨年度、静岡県とモンゴル国の教育センター間で連携協定を締結しました。平成 31 年度は「学習科学」、「人づくり」の分野で指導主事が相互に交流を進める予定にしております。

海外教育旅行の促進につきましては、年々、県内高校の海外旅行の実施率が上昇しておりまして、最新の集計では実施率が 35.5% となりまして、全国トップとなったところでございます。今後も、海外の学校からの訪日客の受け入れも含め、高校生の国際教育旅行を促進してまいります。

最後に、川根高校インドサマーキャンプでは、川根本町にサテライトオフィスを開設しましたゾーホージャパンと川根高校が連携をいたしまして、8 月にゾーホージャパンが持つ企業大学での IT 研修を実施する予定であります。昨年度この体験に参加した高校生のうち 1 人が、この春からゾーホーの川根本町サテライトオフィスに就職することになりま

して、企業と学校と教育委員会が連携したモデル的な取組になっていると思います。

今後とも、ふじのくにグローバル人材育成基金を拡充し、高校生の海外体験の促進、教職員の海外研修を支援するとともに、重点国との青少年交流事業等でグローバル人材の育成に取り組んでまいります。

教育委員会からは以上です。

【影島地域外交課長】 ありがとうございます。

続きまして、文化・観光部、お願いいたします。

【植田文化・観光部長】 資料3-2をご覧ください。文化・観光部関係です。

1、地域や世界に貢献できるグローバル人材の育成でございます。まず、(1)の県内高等教育機関グローバル化支援について、新規事業の2つに線が引いてありますが、まずは留学・留学生支援機能の設置に関して、ふじのくに地域・大学コンソーシアムに新たにコーディネーターを配置いたします。こちらで留学生の受け入れの働きかけや、留学生の支援等を行ってまいります。具体的には、個別相談とか巡回指導等を行ってまいります。

2番目の国際学生寮（混住型）モデル事業の実施でございます。これは国際学生寮の新たなあり方の検討を行います。例えば、空き家等を利用した新しい寮等の設置の検討の可能性の調査を行ってまいります。

(2)の外国人留学生の受入でございます。こちらも1件、新規がございます。大学コンソーシアムを通じた生活支援等を行ってまいります。これまで各大学ごとに行っていました生活ルールや交通安全講習会を、大学コンソーシアムが留学生を集めまして講習会等を実施し、コンソーシアムのほうでこのような資料の講習会を行ってまいります。

(3)の日本人学生の海外留学促進でございます。まず、1つ目ですけれども、産学官連携による日本人学生の海外留学促進事業ということで、奨学金の寄附等を行ってまいります。また、海外留学応援フェアの実施や海外留学説明会等も実施してまいります。

2番目の文化交流でございます。(1)の日本富士山協会による相互交流です。中国の泰山と台湾の玉山との交流を毎年行っておりますが、今年度につきましても泰山の泰安市訪問団の受け入れや、玉山との相互の登山等も行ってまいります。

(2)の朝鮮通信使記念茶会でございます。第1回の朝鮮通信使が徳川家康公に謁見したことを記念して、6月20日に清見寺においてお茶会を行います。

(3)のジャパン2019（SPAC公演）でございます。今年度はニューヨークで、演目は「アンティゴネ」であります。9月26日からニューヨークに出向きまして、SPACの

公演を実施してまいります。

以上でございます。

【影島地域外交課長】 ありがとうございます。

続きまして、健康福祉部、お願いいたします。

【藤原健康福祉部長代理】 健康福祉部からご報告いたします。

健康福祉部では、主に交流という観点からは中国と交流しています。2点ありまして、1つは医療衛生分野、もう一つは福祉分野でございます。

医療衛生分野につきましては、7月に中国の衛生健康委員会、10月に民政部からそれぞれ7名程度が静岡県を訪問していただきまして、県立総合病院の先端医学棟や高齢者福祉施設を視察していただきました。また、私どものほうからも9月に浙江省を訪問いたしまして、国際健康産業博覧会で本県の施策であります社会健康医学の推進についてプレゼンテーションを行ってまいりました。

これ以外につきましても、例えば国際NGO、JOICFP及びJICAの依頼でアフリカ、中東、東南アジア7カ国の方々を受け入れ、また、ベトナム、ハノイ市、インドネシア保健省、モンゴル国の大学院等、中国に限定することなく交流、視察の受け入れ等を行っております。

さらに、交流ではなくて実利のあるところということでは、今年度ですけれども、フィリピンの福祉関係の大学を県内の社会福祉法人とともに訪問いたしまして、向こうとつながりをつくっていきたいと考えております。

各県は、ベトナムのほうに今、目が集中しておるところで、それを横目でにらみながらフィリピンのほうに先鞭をつけたいと考えているところでございます。

以上でございます。

【影島地域外交課長】 ありがとうございます。

それでは、危機管理部、お願いいたします。

【金嶋危機管理部長】 資料3-4をご覧ください。危機管理部では、防災に関心の高い台湾との防災交流を推進するため、台湾の地方政府消防局と「防災に関する相互応援協定」を締結し相互交流を図るとともに、本県消防職員を講師として積極的に派遣し、消防技術の向上にも協力しております。これらの交流を通じて、平時から「顔の見える関係」を構築し、災害発生時には、防災応援協定に基づき被災地の救出・救助など、相互に応援できる体制を確保することとしております。

具体的な交流実績についてですが、防災応援協定を締結した台湾の主要都市8市県の消防局と、防災施設や訓練の視察、訪問などの交流を、この6年間で39回行っております。

また、台湾全土の消防士養成機関である台湾内政部消防署訓練センターからの要請により、昨年度は2回、消防学校教官等を講師として派遣し、日本の消防技術、危険予知手法や三連はしごの使用方法などについて具体的な指導を行いました。訓練センターからは、「日本の消防技術を学べて大変参考になった」等のご意見をいただいております。今後も消防職員間の実務的な交流を進め、本県と台湾の災害時の応援体制をさらに強化していきたいと考えております。

以上であります。

【影島地域外交課長】 ありがとうございます。

それでは、交通基盤部、お願いいたします。

【宮尾交通基盤部長】 それでは、交通基盤部の取組についてご説明をいたします。

資料3-5をご覧ください。まず、モンゴル下水道技術支援の推進についてでございます。今年度から3年間、下水道技術支援、モンゴル国「ドルノゴビ県の官民連携による未処理污水改善プロジェクト」を、JICAの「草の根技術協力事業」を活用して実施します。このプロジェクトは平成23年から継続している支援の一環でございます。平成27年度から29年度に実施しましたJICA事業の後継事業でございます。

前回のプロジェクトでは、本県職員等の現地派遣やドルノゴビ県技術者の受け入れ研修を通じまして、下水道施設の運転管理を担う技術者の人材育成を中心に支援を行いました。

今回はこれまでと同様の支援に加えまして、ドルノゴビ県で整備が予定されている污水处理施設の計画策定や、県内中小企業のモンゴル国への進出支援等、さらに踏み込んだ取り組みを実施してまいります。

次に、資料の中段をご覧ください。「世界で最も美しい湾クラブ」を活かした取組についてでございます。昨年度は4月にフランス、9月に台湾で開催された総会に出席をいたしまして、湾クラブの会長をはじめ、各湾の代表者らと交流し意見交換を行い、本県の魅力についてPRを行いました。

今年度は10月に富山県で総会の開催が予定されておまして、参加各国の関係者や世界中の人々に向けまして、本県の駿河湾の魅力を感じていただけるよう努めてまいります。

また、世界で最も美しい湾クラブのブランド力を生かしたクルーズ船の誘致など、観光交流を一層拡大させるとともに、駿河湾の持つ世界クラスの価値を後世に引継ぐように

取り組んでまいります。

以上でございます。

【影島地域外交課長】 ありがとうございます。

それでは続きまして、通商の促進について、経済産業部からご説明をお願いいたします。

【天野経済産業部長】 経済産業部です。資料4、通商の促進をご覧ください。

1の取組方針についてであります。TPP11や日EU・EPAなどの相次ぐ発効や改正出入国管理法の施行など、通商を取り巻く情勢は大きな変化に直面しております。経済産業部ではこのような変化をむしろ新たな飛躍への契機として捉えまして、高付加価値化やブランド化の推進等による競争力強化や世界展開の推進に積極的に取り組み、農林水産物をはじめとする産業基盤の一層の強化を図ってまいります。

2の平成30年度の主要な成果であります。主な実績といたしましては、東南アジア諸国へのイチゴの輸出が増加する中、航空輸送の途上で揺れ等によりましてイチゴの傷みが1割に達するという報告がございましたので、農業団体とともに輸送用パレットの改造をいたしまして、この解消を図ったところであります。

あわせて、欧米などで需要の高まっております有機抹茶の生産拡大を図るために、国の交付金事業を活用いたしまして新たに4地区においててん茶工場を整備いたしまして、有機抹茶の輸出拡大に向けた生産力を強化いたしました。

また、ハラールポータルなどを開設いたしまして、ハラール等多様な食文化の対応に取り組む事業者を支援しております。

加えて、化粧品産業の海外進出支援では、上海大丸におきまして静岡県産化粧品展を開催し、県内企業6社が出展し、好評を博したところであります。引き続き、化粧品の海外輸出に向けた取組を強化してまいります。

このほか、2018日米医療機器イノベーションフォーラム静岡の開催や、農業分野を中心にモンゴルとの交流などを進めたところであります。

平成31年度の主要な取組についてでありますけれども、本年度は本県産業の競争力強化、世界展開の推進と、力強い攻めの農林水産業の創出を中心に取り組んでまいります。

(1)の本県産業の競争力強化と世界展開の推進についてであります。CNFなど新素材や次世代自動車、ロボット、航空宇宙などの成長産業分野への参入を目指す地域企業に対しまして、産学官民が連携して研究開発や事業化、販路開拓までを一貫して支援してまいります。

また、世界的に進むEV化や自動運転などの急速な技術革新に対応するため、次世代自動車センターを中心に官民連携による支援プラットフォームを充実させていくほか、企業も協力して基盤技術を開発する協調領域への取り組み促進、自動運転実証実験の実施、工業技術研究所への機器整備などを通じまして、県内企業の海外進出への支援を積極的に展開してまいります。

このほか、現在6カ国に展開しておりますサポートデスクにつきましては、新たにアメリカ、フィリピンに設置し、海外進出企業のサポート体制を強化するとともに、市町と連携しICTサテライトオフィスの誘致などを図ってまいります。

(2)の力強い「攻め」の農林水産業の創出につきましては、県産品の輸出促進機能を担う商社機能のプラットフォームを構築するとともに、輸出拡大にチャレンジする事業者の支援を引き続き強力で支援してまいります。

お茶、日本酒をはじめとした県産品を取り扱う輸出業者の海外販路開拓支援につきましても支援してまいります。

また、生産構造を転換し、強い生産基盤を持った生産者を育成するための園芸施設整備や、家畜飼養管理施設等への整備に対する畜産競争力の強化への支援も充実してまいります。

さらに、今後、2020年中にも開通が予定されております中部横断自動車道の有効活用を見据えまして、近隣県、山梨県や長野県、新潟県と連携いたしまして、清水港を活用した新たな輸出スキームを構築してまいります。

私からの説明は以上であります。

【影島地域外交課長】 ありがとうございました。

最後に、スポーツ・観光交流の促進につきまして、文化・観光部からご説明をお願いいたします。

【植田文化・観光部長】 資料5をご覧ください。スポーツ・観光交流の促進でございます。

まず、静岡県の現状でございます。1にあります外国人延べ宿泊者数につきましては平成30年度で181万3,000人ということです。一番右側にありますけれども、昨年に比べて31万1,000人増ということでございました。

次、富士山静岡空港の出入国者数の状況でございますが、平成30年度は29万人余りということで、昨年度から若干増えました。平成27年は中国の爆買い等がありましてすごく

多くの来訪がありましたが、それに次ぐ人数を記録してございます。こちらは台北線、ソウル線の減便がございましたが、煙台の新規就航がございました。また、非常に高い搭乗率によりこのような結果になりました。今後も宿泊者数の増加等に努めてまいります。

2のスポーツ交流の促進でございます。まずはラグビーワールドカップ、9月28日の日本戦を皮切りに、エコパでも開催されます。この開催を契機に、静岡県を訪れる外国人を対象におもてなしをしっかりとしてまいります。ファンゾーンやおもてなしエリアにおいて本県のPR等を実施しながら、この機会を最大限に活用してまいります。

(2)の東京2020オリンピック・パラリンピックでございますけれども、もうすぐになりました。本県を訪れる外国人のおもてなしと本県のPRをしっかりと進めてまいります。

2番目にありますけれども、9カ国1地域と14市19件の事前キャンプの覚書締結が実現されております。これをしっかりと市民交流等のレベルに結びつけてまいります。

(3)のサイクルスポーツでございますけれども、小山町でヒルクライム等を行います。イタリアや台湾等の交流等も進めてまいります。

3番目の観光交流の促進でございます。静岡ツーリズムビューローが中心となって行ってまいります。外国人向けの商品開発や、海外市場への営業活動等を一貫して行ってまいります。特に、重点市場として香港やタイ、オーストラリア等もターゲットにしながら進めてまいります。

また、オリンピックとラグビーもありますので、大型イベントの観戦客等も取り込んで、滞在の長期化等も図ってまいります。

(2)の富士山静岡空港を拠点とする海外との交流でございます。今年度4月、管理運営が運営権者に一本化されました。利用促進につきましても、県と富士山静岡空港株式会社、利用促進協の3者で、これまで以上にしっかりと利用促進に取り組んでまいります。

具体的には2番目にございますけれども、今、定期便が飛んでおります中国、韓国、台湾でも海外駐在員と連携して旅行商品の造成、また交流の拡大等を通じて定期便の拡大を図ってまいります。

また、新規路線の誘致といたしまして、東アジア、東南アジアについて、特に路線開設に意欲的な航空会社への働きかけを中心に行ってまいります。

以上でございます。

【影島地域外交課長】 ありがとうございます。

それでは、これまでの報告を踏まえまして、出席者によります意見交換に移ります。こ

こからの進行につきましては、地域外交担当部長が対応いたしますので、よろしくお願いいたします。

【掛澤地域外交担当部長】 それでは、最初に駐在員事務所から今年度の取り組みなどについて紹介いたします。

それでは、最初に中国駐在事務所の石井所長、お願いいたします。

【石井・中国駐在員事務所長】 中国駐在員事務所の石井です。今年度もよろしくお願いいたします。

当事務所の活動ですが、今年度も浙江省との幅広い交流を進めていくことが中心となります。浙江省の対日交流が実質的な経済効果を狙った動きにシフトしている中で、現在、省商務庁から省内企業の日本進出、静岡県への進出に関する相談を数件受けています。商務庁担当者からは、省内企業の日本進出、日本への投資計画が活発化しているとも聞いており、関係機関の協力をいただきながら形のあるもの、県にとってもプラスになるものになるよう取り組んでいきたいと思っております。

なお、浙江省が省内企業の日本での活動を支援している理由ですが、中国国内でも有数の民間企業が盛んな同省として、省経済の根幹である民間企業の活動を擁護する意図があると思われまます。

次に、富士山静岡空港の中国路線に関しては、先ほど植田部長からもありましたけれども、昨年末に山東省の煙台市から新規就航が開始しています。空港の運営が民間運営へと移行しましたが、新しい事業者とも協力し、航空会社への働きかけ、旅行者へのPRを通じて既存路線の搭乗率向上、新規路線の就航を図ってまいります。

そのほかとしましては、例年と同様、浙江省、北京市等で多くの事業が予定されており、これらの事業が効果的に行われるように中国国内での調整を図ってまいります。

以上です。

【掛澤地域外交担当部長】 ありがとうございます。

続きまして、韓国駐在員事務所の小関所長、お願いいたします。

【小関・韓国駐在員事務所長】 韓国駐在員事務所の小関と申します。今年度もよろしくお願いいたします。

昨年度は、忠清南道との5周年記念行事にご協力をいただきましてありがとうございました。今年度も、民間交流などを通じ、両県道の交流を促進していきたいと思っております。

さて、先ほどからも何度かご紹介がありましたが、富士山静岡空港とソウル仁川国際空

港を結ぶ航空便が、これまでのエアソウル週3便に加え、5月10日から新たにチェジュ航空が月、水、金、日曜日に就航することになりました。エアソウルとチェジュ航空は両方ともいわゆるLCC、ローコストキャリアですので、往復で購入しなければ料金が高くなるということはありません。片道で購入しても、往復で購入しても運賃は同じですので、午前・昼便のエアソウルと午後便のチェジュ航空を組み合わせれば旅行先の滞在期間を長く確保することができます。そのようなメリットをPRして、両方の航空会社が共存し、ともに高い搭乗率を保てるように励んでいきたいと思えます。

また、交流人口の拡大とあわせて、県産品の販路拡大にも取り組んでおります。これまで、商談会への出展支援や、韓国大手スーパーとのマッチング機会の提供など、チューブワサビや茶そば等、県産の加工食品の販路拡大につなげてまいりました。

今年度も5月にソウルで開催される国際展覧食品商談会の県ブースに県内のワサビメーカー2社が出展を予定しておりますので、さらなる販路拡大を目指すとともに、世界農業遺産に認定されている「静岡わさび」の伝統栽培方法の周知も図り、おいしいワサビを味わいたければぜひ静岡へと宣伝し、観光客誘致の面でもその商談会を活用したいと考えております。

日本と韓国との関係は現在史上最悪とも言われておりますが、実際に暮らしていると、反日感情を肌で感じることはありません。相互理解を深めるためには実際に訪れていただくことが一番だと思いますので、友好都市である忠清南道をはじめ、韓国の方にはいろんな機会を通じて静岡のよさを知っていただくとともに、帰国した際などには静岡の方にも韓国のよさを知っていただけるように努め、交流人口がますます増えるようにしていきたいと思えます。

以上です。

【掛澤地域外交担当部長】 ありがとうございました。

続いて、東南アジア駐在員事務所の福田所長、お願いいたします。

【福田・東南アジア駐在員事務所長】 東南アジア事務所の福田です。

まず、最初に政府間交流といたしましては、知事にもご訪問いただきました、インドネシア西ジャワ州との交流を中心に進めてまいります。カミル新州知事に代わってからも、友好的な協力関係を継続するため、現在、早期に静岡県への訪問を働きかけております。また、西ジャワ州からの技術研修医の受け入れ、ジオパーク間の研究員の相互視察など、人材育成分野での交流を進めてまいります。

次に、インドでは、現在、国政選挙が行われておりますが、選挙終了後、状況が落ち着きましたら、テランガナ州と経済面を中心とした交流を進めてまいる予定です。また、川根本町の高校生によるゾーホー社派遣について、継続してサポートしてまいります。

次に、経済面です。ベトナムではビジネスセミナーを開催いたします。本県の現地進出企業を支援する体制づくりのため、南部のホーチミンで初めて開催をする予定です。また、タイでは、泰日工業大学との覚書に基づいて、ビジネスインターンプログラムやジョブフェアを協力して行って、高度人材の獲得を目指してまいります。

次に、通商、観光分野では、シンガポールでワサビ、緑茶などの静岡の食文化を周知していくPR活動を現地事業者と連携して行い、県産品の消費拡大につなげてまいります。また、ASEAN各国の観光展などで、ラグビーワールドカップや東京オリンピック・パラリンピックの伊豆開催などをPRし、インバウンド拡大、空港就航の促進を目指します。

今後、日本側では外国人材の受け入れ拡大などが進んでいくと思われまいますが、事務所として、こうした大交流時代に即した役割を果たしてまいりたいと思います。

以上です。

【掛澤地域外交担当部長】 ありがとうございました。

最後に、台湾事務所長の宮崎所長、お願いします。

【宮崎・台湾駐在員事務所長】 台湾事務所の宮崎です。いつも皆様にはお世話になっております。この場をお借りして、感謝申し上げます。

昨日のヤフーニュースで出ていたんですが、見えるかどうか分かりませんが、皆さんもご覧になっているかどうか分かりませんが、台湾に置かれている自治体の事務所として、県レベルで2つの事務所ということで、ニュースに取り上げていただきました。ここに偉そうにいろいろ書かれているんですが、これはひとえに関係する皆様のおかげだということで、この場をお借りして、改めてお礼を申し上げたいと思います。

台湾事務所です。他の地域に比べて、所管するエリアが非常に狭いという特徴を持っております。ただ、狭いがゆえに、より深く、それからきめ細かく交流の仕掛けをしていくということで、心がけてまいりました。

観光については、とにかく静岡県の知名度を上げたいということで、これまで取り組んでまいりました。幸いなことに、去年はこういった本を2冊、静岡という名前がついていて、2冊発売されました。こういうこともあって、台湾での認知度は上がってきているんじゃないかと思えます。

それと、経済分野ですけれども、昨年度、先月ですけれども、静岡のワサビを売り出したいということで、静岡ワサビフェアというものをやりました。店舗的には4店舗だったんですけれども、県の商材も使って、メニューの定着化をしていきたいというお言葉をいただいていますので、それを継続してフォローアップしていきたいと思っています。

それから、民間の交流ですが、来年のオリンピックを控えておりますので、オリンピックを契機にして、台湾の交流の拡大、定着を図っていく。競技としては、掛川のアーチェリー、静岡市の陸上、御殿場のサッカー、それと、先日、ニュースにも出ていましたけれども、小山町のサイクリングということで、県内でいうと4つものホストタウン。今現在、申請中のものもございまして、全国で見ても非常に割合の高い数字を示しております。私、きのう調べてみましたが、他県で14の自治体がホストタウンとして登録をしていますが、静岡は何と4つ登録をしています。台湾からもお褒めの言葉をいただいております、これも引き続き頑張っていきたいと思っています。

それと、今年、路線の充実、拡大に力を入れていきたいと思っております。T S Jとともに取組の強化を図ってまいります。経済に関しても、積極的な県内の事業者さんとともに、ワサビ、お酒、他の県産品についても拡大を図っていきたいと思っております。

以上です。

【掛澤地域外交担当部長】 ありがとうございます。

それでは、これまでの説明、駐在員事務所からの活動報告を踏まえまして、意見、助言等をお願いしたいと思います。

なお、発言をされる場合には、回線がつながっております駐在員にも聞こえやすいように、マイクスイッチをオンにさせていただいて、お名前を伝えた上でお話してください。よろしく願いいたします。

では、本日は、秋岡補佐官は所用がございまして途中退席されるということでございますので、よろしければ、秋岡補佐官からお願いいたします。

【秋岡通商担当補佐官】 ご配慮いただき、ありがとうございます。通商担当補佐官の秋岡です。

中国についてコメントをすると、先ほど、石井所長からもお話があったように、私は今年度の最重要課題は、浙江省も今年度、力を入れている対日投資について、うちがどういう形でこれを受け入れるチームをつくるかということだと思います。浙江省は昨年、JETROと省としてMOUを結びまして、今年が次のステップになるんですが、次のステッ

プについては先方が正式に発表をしていないので、この場では、ご存じの方はもう情報が回っていると思うんですが、これについて本県としてどう取り組んでいくのか。石井所長から伺っているところによると、彼らが踏み出す第一歩は、旺盛な浙江省企業の対日投資をより推進するためのステップと聞いていますので、本県にとっても大変有意義なものなんですけれども、これをただ単に工場を提供するとか、そういうことではなくて、金融機関なども含めたもう少し広いところで、静岡県として中国企業と関わっていく仕組みづくりをきちんとすべきではないか。まだ彼らが実際に踏み出すまでには時間があります。

と申しますのも、例えば1つの企業が日本に出てきて、仮に何かをつくるとしても、販売についてのコンサルティングとか財務についてのコンサルティングでは、具体的なものが大変必要になってきて、それは県のノウハウプラス地元の企業であるとか、場合によっては金融機関はその先に融資ということもありますので、深く関わってくると思っています。例えば販売コンサルといっても、その商品のマーケティングについてのアドバイスであったり、販売プロモーションについての紹介だったり、あともう1つは財務であっても、中国と日本は経理のシステムも違いますし、そもそも会社の経営についての考え方が違うので、こういうことについてもきちんとフォローをしていく。そして、場合によっては、彼らが本県企業として資金調達需要が発生したときに、きちんとつないであげるなり、アドバイスをしていくとか、単に場所をアドバイスするというを超えたところで、関わっていく時代になったのかなと思っています。

今、浙江省の力というのは大変すごいものがありまして、例えば東北三省の遼寧省、黒竜江省、吉林省の省長または書記、それから重慶の書記、それから中国の経産大臣である商務大臣、これは全部、浙江省出身あるいは浙江省で要職を経た人という人脈が形成されていて、浙江省の勢いというものを私たちはもう一度、見直すべきではないかと思っています。

その次のステップというのも、浙江省の今の書記と省長のトップのリーダーシップで、当然その後ろには中国政府もついていると思いますが、ここで、本県が今までご紹介のあった交流プラスというところに踏み出していく、本県にとっても一番のモデルケースではないかと思っています。交流プラスというのは、交流のところが県民交流であったり、行政交流であったりしたものが、プラスというところで投資なり、輸出入なりというところに、交流をベースにして次のステップに行くというところの、これは一つのモデル事業になる

と思いますし、また、浙江省側にとって、そうしたことを静岡県がつくってくれる、サポートしてくれるというのは、きちんとした形で行うことが必要で、MOUとまではいかなくても、相当ハイレベルな協議をして何か形にしたらいいと思っています。これが浙江省ひいては中国側にとって、海外に進出する中国企業に対して、受け入れ側の現地側がどのような形でサポートをすることが大変重要なのかということをおぼえてもらえたいモデルケースにできたらしていきたいと、私は思っています。

おそらく、それは同時に、どっちが同時にということではなくて、まず、私たちがそれを示すことで、次に本県企業が中国に出て行くときに、同じような幅広いアドバイスなり、コンサルティングなり、先ほど申し上げたトップの人脈なりを背景として、本県企業の中国における展開など、省を挙げてバックアップしてくれるところに持っていく、その一歩とならないかと思っています。モデルケースをつくるための仕組みづくりを少し幅広にきちんと考えてみて、それが次のステップでの本県の企業にとってもプラスになるようなものにつなげていければいいと思っています。

前から、この会議で、静岡県は浙江省との信頼関係、交流関係を生かして、日本の浙江省に対する交流の窓口になりましょうという話をしていましたが、ここで一つモデル事業をつくることで、本県はさらに浙江省とのいろいろなビジネスでの関係も深めていくことで、仮に日本に進出する企業が静岡以外に立地する場合であっても、静岡県に相談しよう、静岡県のバックアップで業務展開をしようとなるのが、前から申し上げている浙江省の日本中での投資、あるいは進出の全ての窓口到我々はなり得るということへの道筋ではないかと思っています。

以上です。

【掛澤地域外交担当部長】 ありがとうございました。

天野さん、どうぞ。

【天野経済産業部長】 今年の初めに、日中協議会で浙江省と事務的な打ち合わせをしたところ、浙江省側から非常に幅広の、向こうの各省庁からいろいろな要望事項が出ておりました、今の対日投資促進に関するものもその中に入っていたんじゃないかと思っています。今、地域外交局で、各部局にかなり広範に展開するようなご要望ですので、今、取りまとめていただいて、振り分けをしていくところです。そのような中で、そういった仕組みづくりの部分も含めて、検討をしていければと考えております。

【秋岡通商担当補佐官】 部長がおっしゃるとおりで、ただ、10年前とかと中国側も変

わってきているので、私は、ここは県としてリーダーシップに基づいて、向こうのリーダーとの間に新しい形、あるいは普段メンバーに連なっている感じではなくて、金融機関の投資部であるとかコンサル部であるとか、もうちょっと違う形のピンポイントなチームを1つ作って、モデルケースが実現できたらいいなという感じなんですけど、それはまた今後の検討で。向う側も変わってきていて、こっち側も変わってきているので、少しお皿を変える。別にそれを否定するわけじゃなくて、違うお皿があってもいいかなというイメージはあります。

【掛澤地域外交担当部長】 ありがとうございます。

対日投資をすることについては、タスクフォースで設けております。ただ、浙江省を中心に対日投資を促進するというチームですので、これから検討をして、ご審議いただきたいと思います。

ほかにご意見等がございましたら、お願いいたします。

東郷さん、お願いします。

【東郷対外関係補佐官】 ありがとうございます。対外関係補佐官の東郷です。

今年の外交方針を、去年、かなり大幅な外交方針の変更がありまして、重点的取り組みとしてのプライオリティーをどうするか、それから運用をどうするか等の変更がありまして、それを踏まえた第1年度の実施ということだと思えます。そこで、去年から今年にかけて起きた変化を中心に4点ほど、できるだけ簡潔にコメントをしたいと思います。

まず、第一に、多文化共生の扱いで、この扱いを地域外交局からくらし・環境部のほうに持っていったというのは、これはまことに時宜を得た判断。もちろん申し上げるまでもなく、国が外国人労働者を入れる。その外国人労働者をいかに県の中にインテグレートしていくかというのは、本当に大事な課題だと思うんです。昔の話をさせていただきますと、私はこの外国人労働者の問題について、最初に外務省で議論したのは竹下内閣のときでありまして、ただ、その当時の外務省の中の議論には非常に違和感がありました。というのは、大体、省内の雰囲気も、日本はすばらしい国だと。経済関係、いろいろ発展している。だから、外国人労働者は門戸を開けたら入ってくるという、非常に上から目線の対応をしていたんです。しかし、それから大きく状況が変わってきて、こちらは少子高齢化で人が少なくなり、外国人労働者というのはある意味で、発展した先進国の中で、いかに外国人労働者を取り入れるかということが各国全部の課題になってきて、その中で日本が特別に魅力を持っているという状況は多分無くなってきているんだと思えます。

そこで、今回、遅きに失したけれども、改革をしたと。ところが、そのときに出てきたいろいろな情報を見ますと、技能実習という形でこれまで入ってきていた外国人労働者の中で、自殺者がたくさん出ていると。これは信じがたいんですけども、報道によるとそうなんです。そこで、これは皆様に本当にお願いをしたいんですけども、とにかく外国人労働者で日本に入ってきた、静岡県に入ってきた人たちが全員、一人の例外もなく、静岡県で仕事をしてよかったと、自分の友達、親戚に、ぜひ静岡に行って、また仕事をしてくださいと言えるようにお迎えすることが、県にとっても、日本にとっても本当に大事なことでと思うんです。

くらし・環境部が中心になっていきますけど、しかし、これは地域外交局にとっても本当に大事な課題ですし、県庁全体にとって必須の課題だと思いますので、ぜひともよろしくお願いしたいというのが第1点です。

それから、第2点で、去年、方針を変えた大きなポイントはスポーツでありまして、今年のラグビー、来年のオリンピックで、いろんな施策が設立されましたけれども、考えなくちゃいけないのは、ラグビーとオリンピックが終わった後に、先ほどそういうお話をしましたけれども、ここで培った交流というものがいかに県の中で根づくか。そういう観点で大事なのは、市町の役割だと思うんです。最近、私が個人的に対応した話で、袋井がアイルランドとのスポーツ交流の基礎になっていると。これは袋井から見ると、袋井というのは今までベトナムとの関係があった。ところが、スポーツ交流を通じて、ベトナムとアイルランドという2つの外国と根づいた交流ができるようになって、袋井にとっても貴重なメリットだと思うんです。そういう形で、市町にスポーツ交流の結果が残っていくようなことを検討して、その潤滑油になれるような役割が果たせるといいと思います。

それから、3番目に、県の重点国については今まで説明があって、特につけ加える点はないんですけども、一番気になるのは韓国です。というのは、国際政治という観点から見たときに、今、安倍内閣のもとで最も緊張関係をはらんできているのが韓国でありまして、そういうことにもかかわらず、小関所長から韓国人の感情は非常にいいと、それは多分そうだろうと思うんですが、しかし、政治の面での緊張は半端じゃないものがある。もう1つの特徴は、今の政治的緊張は、文在寅政権の間の現象だと。私が聞いている話だとそういうのも非常に強いので、これからしばらくの間、忠清南道とのぶれない交流を県が守っていくことが本当に大事ではないかと思う次第です。

最後に、私が理解する限りでは、知事のご関心の一つである横串と縦串の話です。一帯

一路を通ずるユーラシアにおける横串の話と、それから西太平洋にかかる縦串の話、これを今年一年、もう少し進める方法はないか。これは個人的にも、97年の橋本龍太郎総理のシルクロード演説というのは、事実上、私が書いたものであり、この後の森総理が2回目にやられた南太平洋サミットは、たまたま私が局長のときにやったことであり、そのとき以来、私は個人的に関心を持っている分野なので、横串と縦串について、今、地域外交でどういうふうを考えておられるかをお伺いしたい。

以上です。

【掛澤地域外交担当部長】 ありがとうございます。

多文化共生について、技術者が自殺するような国になってはいけないという話でしたが、多文化共生について、これから具体的にどういうふうに進めるかについて、くらし・環境部の河森理事からお願いいたします。

【河森くらし・環境部理事】 どうもありがとうございます。4月16日に多文化共生推進本部の第1回の会議を開催いたしまして、全庁を挙げて今年度に取り組む方針をしっかりと皆さんで共有するというところでスタートいたしました。

早速、昨日ですけれども、プロジェクトチームの会議を開催いたしまして、関係する課で、現在、どのような取り組みを進めているかの情報共有をし、今年度、まず何から取り組んでいくのかということ洗い出す作業に、今、着手をしたところであります。今、補佐官からご助言をいただきましたように、静岡に来てよかったと言っていただけの地域をつくることは、教育ですとか生活、それから働く場、そういった全ての分野において、しっかりと取り組みを支えていかなければならないと思っております。目指しますところは、静岡に来られた外国人の方、それから受け入れた静岡の地域、働く企業、その全てがよしと思える地域をつくるようにということ、昨日、プロジェクトチームの中でも参加しているメンバーで情報共有をし、既に着手しておりますので、しっかり進めてまいりたいと思います。

ありがとうございます。

【掛澤地域外交担当部長】 ありがとうございます。

スポーツ交流ですが、東京2020オリンピック・パラリンピックが終わった後、レガシーとして市町に残していけるような交流というお話でしたが、植田文化・観光部長、いかがでしょうか。

【植田文化・観光部長】 現在、14市19件で覚書を締結いたしており、既に事前の強

化合宿の受け入れ等も各地で始まっていますので、今のところはこのような合宿の受け入れ等を行っております。今後は、これを市町の市民レベルの交流につなげていくのが、オリンピック等のイベントが終わった後、そこに残さなければならないということで、しっかり進めてまいります。

具体的には、今まで市町との意見交換会等も行ってきましたが、今後は、情報提供しながら、具体的にどのように進めたらよいかというのは、県と市町と一緒に考えてまいります。

以上でございます。

【掛澤地域外交担当部長】 ありがとうございます。

それから、韓国とぶれない交流ということでございますが、国によって日本と厳しい時期というか、特に2012年の尖閣の問題のときには、中国とは非常に厳しい関係になったんですけれども、そういった中でも本県は浙江省と交流を続けてまいりまして、揺るぎない信頼関係を築いてきたという実績があるかと思えます。韓国とも、これからも相互の信頼関係に基づいて、政府同士の関係がどうあれ、交流は重要だと考えておりますので、今後とも続けてまいりたいと思っております。

また、先ほど植田文化・観光部長からもお話がありましたが、6月20日に朝鮮通信使と徳川家康公を顕彰する清見寺での記念茶会も、韓国の要人をお招きして開催する予定で準備を進めております。

最後に、横串と縦串について、お願いします。

【長谷川地域外交局長】 横と縦の話ということで、私はこの中で一番長いので、私から考えを。これまで静岡県は交流重点国・地域を縦と横の関係で見ていきますと、日本からユーラシア大陸に広がっていくという関係で見ますと、一番近いところから韓国、中国、モンゴルという国を重点国として取り組んで、交流を進めてまいりました。それから、縦ということで、ちょっと無理といたしますか、日本から見ますと台湾、それから東南アジアの中でベトナム、タイ、それからインドネシアという形で、海洋国家と言われる国々との交流を進めてきているという実績がございます。

今後、それをどういうふうに広げていくかということについてですが、先ほど、スポーツのところでもお話がありましたけれども、その前に、ここ数年の動きとして、横の交流として、いろんな国から要望が来ている中で、特にユーラシア大陸の国々からしますと、ロシアですとか、アゼルバイジャン、それからトルコ、イタリアといった国から、分野別

の交流のお申し込みがありまして、イタリアなどについては自転車の交流ということで、それができる分野かなということで、始めております。その他の国についても、アゼルバイジャンについては経済交流ということで、まずは国を知っていただくということで、一昨年になりますけれども、経済セミナーを開いたりしているところです。ロシアについても、今後、交流ができるかどうか、検討をしているような形で、交流を進めているところです。

縦のラインとしましては、昨年になるんですが、日本の自治体と太平洋島嶼国との交流ネットワークに本県も参加しまして、太平洋島嶼国の大使の皆さんに静岡県に来ていただいて、静岡県を知っていただくというツアーを開催しました。その中で、関心があるのは水産業の分野だということがわかりましたので、この分野で何かできないかということを考えているところです。

そういった形で拡大しているという中で、もう1つ、先ほどスポーツという交流の中で、これは先ほど植田部長からもありましたが、オリンピック・パラリンピックのホストタウンになっているのが14ある。それから、ワールドカップの開催国といいますか、試合をやる国が全部で7カ国あるんですか。それを見てみたところ、横につながる国はかなり多いです。ヨーロッパのホストタウンをやっている国が多い。その中で一つ、ラグビーの中ではオーストラリアが試合をやる国として挙げられるのかなという感じはします。

ホストタウンの国もアジアとヨーロッパが中心になるんですが、こちらの国々との交流を広げていくのは、県としては今の重点6カ国・地域を進めていく中で、人とお金の話もありますので、むやみやたらに広げていくのはなかなか難しい部分もありますので、先ほど補佐官からもお話がありましたが、市町の交流はホストタウン交流ですとか、ワールドカップの関係で迎え入れる国ということもありまして、お客さんがその国からいらっしゃるということもありますので、地域間の交流、市町の交流を支援していくような形で、縦の国、横の国とのつながりを広げていければいいんじゃないかと、私は考えます。

以上です。

【東郷対外関係補佐官】 1点だけいいですか。申し上げるまでもないんですけど、今日の日中間の関係が非常に改善されていると思うんですけども、その一つ大きな転機というのは、政府が一带一路についての政策を変えた2017年5月以降のことだと思うんです。ですから、横串の話ですけども、今の国際政治の目であり、各国ともすごく関心を持っているのは一带一路なので、これを県としてもどういうふう考えていくかというのは、学術

的な点に加えて、政治外交的観点も考えながら検討していけたらいいんじゃないかと思
います。それ以上の議論は必要ないと思います。

【掛澤地域外交担当部長】 ありがとうございます。

そのほかはございませんでしょうか。

教育長、いかがですか。

【木苗教育長】 ありがとうございます。既に鈴木部長からございましたけれども、
私からはグローバル人材育成ということで、もう少し触れてみたいと思います。それは3
年前からやっておりますが、今は毎年、200人以上の高校生及び教員が語学研修で行きま
すし、インターナショナルな大会に出るために向こうへ行く子供たちもいます。実際に向
こうで語学研修をやった子は、1年行って、帰ってくると留年になってしまうのですが、
最近は高校でも配慮していただいて、留年ではなく次の学年に上がれるようになりました
ので、大分、高校生も留学に前向きになりました。

それから、今年のラグビーのワールドカップについてです。試合の終わりが大分遅い時
間になるものですから、県の方でバスの配車のご配慮をいただきました。また、ラグビー
をただ見るだけではなく、レガシーになるように、観戦前にラグビーについて学習できる
小冊子をつくっていただきました。その冊子には、ラグビーの歴史とか文化はもちろんの
こと、実際に子供たちが、小学生からゲームができるような、そういったルールも掲載い
ただいています。

私は近くの田町に住んでいますが、安倍川に行くと、河川敷では既にゲームをやってお
りますので、だんだんラグビーも浸透してきたかなと感じています。

それから、今年のラグビーワールドカップとともに、来年度はオリンピック・パラリン
ピックがありますので、外国人の選手がトレーニングのために静岡県にいらっしゃいます。
やはり言葉を大事にしたいということで、小学生、中学生、もちろん高校生も含めてです
けれども、ラグビーワールドカップやオリンピック・パラリンピックは、外国人と会話す
る好機と捉えています。そこで、静岡県の歴史、文化、産業などを紹介した、日本語と英
語併記の冊子を作りましたので、子供たちに利用していただこうと考えております。

以上です。

【掛澤地域外交担当部長】 ありがとうございます。

副知事の皆様、いかがでしょうか。土屋副知事、いかがでしょうか。

【土屋副知事】 現場を抱えているところから言いますと、伊豆半島、観光がメインな

ものですから、特にございますけれども、インバウンドがなかなか増えてこなかったという感覚の中で、今年度、各旅館の会計の方々とお話ししますと、インバウンドをしっかり受けたいという要望が少し出てまいりました。今までバスで全部来たものからFITに変わってきているということもあって、もともとあった老舗の旅館さん方が受け入れる体制をつくりたいという相談も来てますので、今後拡大していくんだろうなと思ってございます。

その中で昨年度、ジオパークが認定されたということもあって、チェジュのほうに、伊豆のジオパークのガイドさんを十数人を連れてチェジュ島に行つてまいりましたところ、向こうのチェジュ道のほうもそれなりに対応いただいて、今年になってから、あちら方からこの伊豆のほうに来ているということで、韓国との関係はいろんなことがつながつてきてまいっています。

さらに今年になって、これは東京事務所のほうでご支援いただいて、横浜にいらっしやいます総領事に初めて伊豆に来ていただきました。伊豆の中のジオも含めて、歴史も含めて見ていただいたということでつながりができたということとあわせて、その成果なんですけれども、先々週、熱海で、総領事も熱海のほうにもおいでになっていて、韓国の方々が静岡県に対しての見方が少し変わってきている可能性があります。

政府のほうと民間のほうにつなげていくという手法を今とってございますので、そのうち成果が出てくれればありがたいなと思つているところであります。

それから、わさびにつきましても、チェジュに行ったときにわさびの活用の話が出たものですから、民間のほうがつながっていけば、少しずつ公のほうもつながっていくのかなという感じをしております。

ちょっと紹介いたしますと、昨日ニュースで見ていただいたと思つますけれども、デスティネーションキャンペーンにあわせて、AIを活用した案内というのを、これはJR東日本さんのほうで始めまして、駅のところに行きますと、駅のほうでAIを使って、そこで案内ができるという仕組みをつくっていただいたり、昨日商工会議所さんの何人かと話をさせていただいたんですけれども、ここのDCを機会に、いらっしやる方に対してどうやってサービスを提供するか。それがオリパラあるいはラグビーにつながるだろうということがあって、商工会議所では、クイックペイを使ったような、つまりアイペイだと思つますけれども、それを使つてのシステムを今、拡大しておると、キャッシュレスの対応をしているということは昨日も話がございます、皆さんが少しずつインバウンドについ

て活用したいという情報が流れてきているという状況がございます。

それから、オリパラでございますけれども、先ほどちょっとありました袋井とアイルランドの関係なんですけど、実は私ども、スポーツ庁のほうから、この間アイルランドが東京に行ったときに、アイルランドの対応をさせていただきましたけれども、袋井市にとって、ただ一市だけだと16個ほどの競技がございますので、なかなか難しいだろうと。県としてもサポートしながら、次は交流につなげていきたいというような取組をしてございます。今のところではそんな感じでした。

【掛澤地域外交担当部長】 ありがとうございます。

難波副知事、いかがでしょう。

【難波副知事】 それでは、地域外交の価値なんですけども、地域外交をずっと推進しても、これの価値は疑うべきところはないんですけども、個人一人一人がそれをほんとうに理解しているのかというと、そうでもないところがあるかもしれないので、それをもう1回、事務方として確認をしたほうがいいなと思います。

それから、そういう面で、世間に対して、県民がこの価値をどういうふう理解しているのかということも、わかっておられると思込んでいるのではないかなと思いますけれども、そうではないかもしれないので、もう1回やっぱり見直してみる必要があるんじゃないかなと思います。

それは、やらなくていいと言っているのではなくて、いいことをやっているんですけども、それはほんとうに評価されているとか、あるいは自分自身がやるときに、今この新しいポストについて、流されてやっているというようなことになっていないかどうかという確認の意味でもそういったことが必要ではないかなと思いました。

それから、もう1つ、東郷補佐官のお話と重なるんですけども、地域外交のところ、多文化共生が非常に大事だということなんですけれども、地域外交あるいは交流といっていると、どうしても行き来の推進だとかフローのイメージが強いんですけども、やっぱりストックの部分ですね。定住していただくということも大事だし、あるいは2年とか5年の滞在でもそうですけれども、その間にどういうふうに関係ができていくのか、あるいは満足していただけるのかということが大事だと思います。

そういう面で、こちらに滞在している方々がどういう環境で暮らせるのかということも、もっともっとやるべきことはあるのではないかなと思います。子供の教育とかそういうこともありますけれども、それ以外にもいっぱいあると思うんですね。在留資格の問題もあ

って、県だけでは解決できないところがあるとは思いますが、そこは必要かなと思います。

それから、その点で、先ほど当東郷補佐官から日本は選ばれないという話がありましたが、特に高度人材は国際競争の状態になっているので、今むしろ日本には来ないという状況にあるのではないかなと思います。

何となく人手不足の解消のために、外国から人材をとということがありますが、もっと積極的に高度な人材に入ってきて、新しいビジネスを興すとか、イノベーションを興すとかというのが大事なので、そういった面で、高度な人材が来ていただく環境をつくるということが県にとっても非常に大事だということですね。意識する必要があるのではないかなと思います。もちろん来ていただいた方に幸せに暮らしていただかないといけないんですけど、ただその経済的なところもしっかり考慮したほうがいいかなと思います。

以上です。

【掛澤地域外交担当部長】 ありがとうございます。地域外交の価値を個人一人一人が理解しているか、県民にどう伝えるかということについては、各種の事業だとか県民だよりのホームページ等でやってまいりましたが、今一度こうした手法をもう一度考えてみたいと思っております。

あと日本が選ばれないということですが、人材不足の解消だけでなく、もっともっと高度な人材に来てもらうように、推進プロジェクトチーム等を活用して検討してまいりたいと考えております。

吉林副知事、お願いします。

【吉林副知事】 3つほどお話を。多文化共生の関係ですけれども、今いろいろご意見ございました。多文化共生推進本部長を承っております。4月16日にスタートいたしました。これだけ迅速かつ柔軟に、先ほど言いました外国人県民、それから、地域の住民、企業の三方よしというような形の政策を進めていきたいと思っておりますし、今、難波副知事からご意見いただきました点についても、プロジェクトチームも立ち上げて進めますので、その中の課題をどう選定するかの中で、具体的に中身を検討していきたいと思っております。

それから、2つ目が、ラグビーワールドカップと東京2020オリンピック・パラリンピックの関連です。特にラグビーにつきましては、今一番力を入れているのは、とにかく5万人入るエコパスタジアムを満員にするという観点で、とにかく来てくれるお客さんを増や

すということを今まで重点的にやってきましたけれども、今後もそれを続けたいと思いますが、もう1つ、ロンドンのときには外国から40万人のお客さんが見えになったと聞いています。今回も多く外国のいわゆるラグビーファンの方がエコパスタジアムにお見えになると思いますので、その方々をどういうふうに県内に滞在してもらったり周遊してもらったりという観点、今まで欠けてたような感じもしますので、残り150日ぐらいですけども、その点で、今ちょうどやっていますDCキャンペーンの商品をうまくそちらにも提供できないかというようなことも含めて、早急にそういう情報発信、そこを含めて検討を進めたいと思っております。

それから、3つ目でございますけれども、浙江省との関係です。先ほど、秋岡補佐官から浙江省の最近の動きのご紹介がありました。今浙江省、政府系の経済団体からもそういった形での県内の経済団体等との交流等の話についても話が来たのは、多分そういう背景があつてのことだと思われました。その辺につきましては、これまで関係を築いてまいりました浙江省の政府等の幹部との人脈もございますので、そうしたものを積極的に生かして、これから深化させていきたいと思ひますし、8月には卓球大会で私も知事の代わりに浙江省を訪問しますし、6月には浙江省の経済団体の方が本県にもお見えになると聞いておりますので、そうした機会を捉えて、具体的な相談等してまいりたいと考えております。

以上です。

【掛澤地域外交担当部長】 ありがとうございます。

それでは、時間が迫ってまいりました。意見交換はこれで終了したいと思います。

最後に知事から指示事項等ございましたらお願いいたします。

【川勝知事】 今回地域外交監も、外交部長ですね、変わりました、部長になられて戸惑っているところもあると思ひますけれども、各部の仕事の中で、地域外交が入っているということを今日はしっかり再認識していただきたいと思ひます。

内なる国際化というように捉えてください。国際化というのは何でも英語がしゃべれるとか外国に行ったとかということではなくて、外国人とともに静岡は生活する、そういう時代を迎えていると。人口は今365万ぐらいでありまして、10年前は377万6,000人という大変縁起のいい数字であつたんですけども、あつという間に富士山を下っていきまして、しかし一方で、統計数字は別途出されますけれども、9万人をおそらく、静岡県にお住まいの外国人の人口は超えていると思ひます。ですから、この趨勢はこれからさらに加

速するであろうということでもあります。

これを受け入れるという対応方針が多文化共生ということをございまして、皆さんと一緒に、しかしインバウンドにとっては仕事あるいは生活などの面で大変不自由です。外国ですから。だから、我々が米国に行ったときの不自由を改めて想像しながら、彼らに対してどのように快適に過ごしていただくかという最低限のサポートをしなくてはならないと。その意味で多文化共生担当の理事を置きました。

ですから、極めてやることは具体的なので、県だけでは当然できませんから、35市町あるいは各市町の自治体の皆様方に、外国人とともに生活していくという時代が来ていると。お互いに助け合うと。そしてまた、その国の人たちが来ているということは、我々にとって、その国、ブラジルでもあるいはタイでもあるいはベトナムでも、もちろん中国でも韓国でもそうですけれども、そういうところと静岡県はつながっているということで、その方たちは、言ってみれば特に子供がそうですけれども、将来大使になると。お子さんの大使ですけれども、両方の架け橋になる方を育てていると。自分たちが全ての言葉をしゃべることは到底できません。しかし、周りにそういう人たちがいて、いろいろとお互いに役に立つ関係をつくれればいい。もし日本が必要であれば我々のほうが役に立つということでもあります。そういう意味で、多文化共生というのは、文化を共有する民族つまり他民族と一緒に共生をする、そういう地域づくりをこれからしていくということでもあります。

内なる国際化と言いましたけれども、やはり海外体験をしなくてはならないということで、高校生はパスポートを全員持って修学旅行に行っていたかのように言いましたところ、ついに平成29年度で海外研修旅行というんですか、海外教育旅行が日本一になったということでもありますけれども、まだ勉学にそれが広まっていないと。小学校や中学校に対して、教育委員会に対して、ぜひこれは強く要望したいんですけれども、全ての10代の半ばぐらいに海外の体験をさせるということが教育上とても重要であるということで、これを引き続き推進していただきたいと思うところでもあります。

それから、我々重点領域と言っておりますけれども、これは近いところから始まったんですけれども、いろいろな環境がございまして、今年はワールドカップ、来年はオリパラということで、こうしたものは機会を捉えて、これを国際、地域外交に生かしていくということですね。両方ともスポーツですから、スポーツというのは切り口として非常にわかりやすい。白鵬さんも間もなく日本国籍をお取りになるということであり、大変な大きな決断だと思っておりますけれども、そういうスポーツというのが本当に地域間を、国を結ぶ、そ

ういう領域であるということ、その領域においてはどの46都道府県にも負けないという、スポーツを通して交流するというこの機会を地域外交に関係者はどう生かしていくか。それがレガシーにもつながっていくであろうということでもあります。ですから、地域外交としてスポーツを捉えるということではないかと思います。

それから、今、一带一路ということでもありますけれども、一路というのはシルクロードで、そして一帯というのは海路ということになるかと思いますが、日本は海洋国ですから、海に開かれている国ですね。

しかし、太平洋をご覧になって日本の位置をご覧になりますと、北太平洋の西側に位置しているわけですね。東側にあるのがアメリカ大陸ですから、望洋とした大洋が広がっているわけですね。ところが南を見ると、台湾から東南アジア、さらにミクロネシア、さらにオセアニアというふうに多くの地域あるいは国が密集しているわけですね。そのところの一角を我々の日本列島。ですから、これをヤポネシアという人がいますね。島尾敏雄さんという人が使われて、最近はやポネシアという学術雑誌が三島にごぞいます遺伝研究所から出ました。ですから、我々はヤポネシアということになれば、これはポリネシアだとかメラネシアだとかミクロネシアだとか、そういう一太平洋の島々の仲間の1つということになりますので、ですから、海と海をつなぐというのは津々浦々ということになりますから、西太平洋津々浦々というものの一角を形成しているということになります。

西太平洋というのは、ほぼ太平洋は円形ですから、三日月型になっているわけですが、半月状になっているわけです。そうは言っても、それほど時差がないですね。アメリカに行くとか中東やヨーロッパに行くのと違ってあんまり時差はないと。しかし、南半球にとっては半球で、季節が反対になるということもありますけれども、時差ぼけのないところということですね。これがいわゆる経度連合というふうにも言えるでしょう。だから、それが縦なわけです。だから経度連合と言ってもいいし、縦に飛ぶと言ってもいいわけですが、西太平洋津々浦々のネットワークをつくっていくというように見ながらやっていけばよろしいということです。西太平洋のネットワーク、津々浦々連合とまではいかないですが、TPP連合もそういう地域にかなりありますね。ニュージーランドからオーストラリアまで広がっている。もちろんチリとかメキシコにもありますけれども、基本的にそういうふうに見ればよろしいと。

それからまた、シルクロードというのは、大変わかりやすいですね。しかも東郷補佐官が外務省にいらしたときに橋本内閣のときにおつくりになったということですが、彼は退

任されまして、その後、小渕さんが引き受けられまして、そして、これはモンゴルを中心にやろうというお気持ちが強かったんですけれども、我々が結果的にそれを継げる形になっています。

それをずっと西のほうにいくと、カザフスタンとかトルクメニスタンとか、いろいろあるわけなんですけれども、その向こうにトルコがあるわけなんですけれども、トルコとの関係も、文化芸術大学が大学間交流を非常に盛んに進めているわけですね。その地域ぐらいになると、例えばアゼルバイジャンというのが伊東市と非常に深い関わりがあるということで、さらにイタリアにいくとトリエステもございます。一番東のフリウリ＝ヴェネツィア・ジュリア州と交流もしておるし、自転車での交流もしておるということになって、このシルクロードというのは、漢とローマを結んだわけなんですけれども、そういうのが点として何となく見えてきているわけです。だからシルクロードの東西の連携といいますか、それから、西太平洋、南北の合従、こういうのが見えてくるのではないかと思います。

ですから、これから、私ども日本全体が 3,000 万、4,000 万の人たちが来る時代になっておって、我々のところは東京とか京都とか有名な観光地のちょうど真ん中にもございますし、何と言っても富士山があります。

それからまた、中国が今、非常な勢いでこの 10 年間で台頭してきたと。その中国の顔が程永華大使だったわけですね。平成 22 年、2010 年の 2 月に着任されまして、来月の 9 日に離日されると。通常 60 歳で定年のところ 65 歳まで仕事をされてこちらにいらしたということでもあります。ですから、この 10 年間、我々は程永華大使を通して中国を見てきたという面もあります。5 月 7 日に多くの人を招いてお別れ会が開かれるんですけれども、私どもが直接行ったら 45 分も時間をとっていただいたわけです。東郷補佐官にも来ていただきまして、程永華大使、また汪婉夫人ですね、彼女は交流部の参事官をされておられますけれども、要人と一緒に親しくお話をしたんですけれども、静岡県との関係に対して、この 10 年間、彼らにとっては忘れられないよい思い出があるわけです。そういう実績は一朝一夕にできるものではありません。ですから、それぞれの担当のところで、担当が変わった方もいると思いますけれども、一過性にしないということでもあります。大事にする、一期一会ということでございまして、そうしたときに韓国とは忠清南道とは、これはもう言うまでもなく白村江の戦いということがあります。こういうふうには 1,300 年以上の歴史というのが今に来ているわけですね。

それから、もちろん、朝鮮通信使は 400 年近く前のことから始まっているわけですから、

400年前の歴史がこのお茶会にこれが生きています。ですから、やはり、横に見ると同時に縦に見るというのは、地理的に横に見るといふか、地理的に広がる形での認識を伺うと同時に、歴史的な、これも縦ですね、時間的な認識も深めないといけないということです。

ですから、皆さん、お話聞いていると、何となくあれみたいな言い方するんですよ。水たまり。つまり浅くて狭いんですね。ですから、これを広くしないといけないと。何となく狭くて深いという言い方をする人がいますけれども、これはそんなことはないですよ。狭い水たまりはやっぱり浅いです。ですから、深くしようと思ったら穴を大きく掘らんといいかんわけですね。基本的に。ですから、海なんですよ。広い海が深いんです。ですから、地理的な認識を広めると同時に、歴史的な深みというものも合わせて持たないといけない。部長さんである以上、自分が全部できなくてもそういうことを持っている人が前にいるということに常に心がけるようにしたほうがいい。あるいはそういう本を読んで、地域外交や担当の部局に関わるお仕事について、深く広く知っているということが大切だと思います。浅く広くという人がいますけれども、実際は浅い知識は説得力を持ちません。したがって、しっかりとした裏付けがないとだめなんですよ。そういう意味で、歴史的にも地理的にも広げなくちゃならないような、つまり我々の精神世界ですね、それが内なる国際化です。こういう時代に入っているということで。日常の生活それ自体には、別にこうしたものについて、すぐに役に立つということはありませんけれども、全体を、皆さん長の立場にお立ちになっていらっしゃるの、そういう心構えを持っていらっしゃる、おのずと周りの人もそういうふうになっていくと。次の人に自分よりもいい人を育てるというつもりで精進していただくようお願いしたいと思います。

今日はそれぞれ上海、ソウル、そしてシンガポール、それから宮崎さん、長くやっていただけで、努力をされて、一番長い宮崎さんから一番若い福田さんまで、それぞれの経験を生かして今年1年間、皆さん健康に気をつけて、いわば平和づくりのためですので、立派な仕事を我々はしていると思います。自信を持って仕事して下さるようお願いいたします、私の最後の挨拶といたします。

【影島地域外交課長】 知事、ありがとうございます。

皆様、長時間にわたりまことにありがとうございました。今後もお出席の各部局の皆様とともに、本県の地域外交を展開してまいります。どうぞ引き続きご協力をお願いいたします。

以上をもちまして、平成 31 年度静岡県地域外交推進本部会議を終了いたします。本日は
ありがとうございました。

— 了 —